初等図画工作と初等教育法の繋がりについて

美術教育講座・佐藤　史子

１．授業の概要

本授業は，小学校教員免許状取得のための必修科目である。最初の授業時に本教科に関する意識調査を実施した。内容は美術の学習経験，得意な領域，指導が苦手な領域，図画工作科の指導に必要な教師の資質などである。受講生の現状把握と，本授業の目的を認識しモチベーションの向上を期待した。授業目的は，初等教育における本教科の目的，教科構造・教科内容の理解，初等教科（初等図画工作）との繋がりを理解することにある。

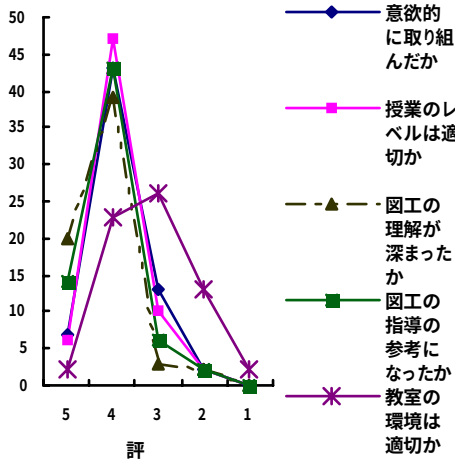
授業の概要は図画工作科の目的と内容，美術教育理論，学習指導要領の変遷，現代の美術教育の動向，造形活動の発達，児童画の解釈，学習指導要領で重視されている領域である造形遊び，鑑賞については特に重点的に講義した。また初等図画工作では教材研究を行い，本授業では教育法を学ぶという認識のもとで最後に模擬授業を行った。

２．授業評価の方法

アンケート調査による５段階評価を行った。５：非常にそう思う，４：比較的そう思う，３：どちらとも言えない，２：あまりそう思わない，１：全くそう思わない，である。

３．授業評価の結果

評価項目ごとの集計は図の通りである。具体的な記述内容は次の通り。①「図工の認識が深まったか」：造形表現の発達段階が参考になった。図工は難しい。指導案の書き方や導入の方法が理解できた。図工の好き嫌いは教師の支援によるところが多い。苦手意識が和らいだ。指導要領や授業の鉄人の話を聞くことで図工の理解が深まった。題材も内容も子どもの発達段階に合わせて設定しなければならない。楽しい図工をイメージさせるがそこから何を学ばせるのかが大切である。模擬授業を行い，他の学生達と意見交換をしたこと。身につけさせたい力，学ばせたいことを明確にすることが大切である。模擬授業を行い，指導を受けて授業をつくる視点や見るときの視点が分かるようになった。造形の発達段階や図工教育の歴史など様々な視点から図工をみることができ「勉強した」という気持ちであった。作品の評価の仕方など視点が変わった。図工を教師の視点から見られるようになった。②「今後，図工の授業を行うのに参考になりましたか」：模擬授業は勉強になった。題材設定，授業のノウハウを学んだ。指導案を書いてもうまくいかないこともあり本当に難しい。自由に楽しむだけでは，図工の授業にならないが，答えがある教科と違い，指導法や評価が難しくて疑問も沢山ある。授業の鉄人の話が聞けてよかった。③「教室の環境は適切でしたか」：受講生が多く，講義室が狭い。縦長の講義室なのでマイクを使っても後ろまで声が届かない，暑いという感想が多く寄せられた。

全体的に現場教師の話と模擬授業の指導を受けたこと，児童画の解釈や評価が，効果的であった。一方，模擬授業はグループ学習なので，貢献度に差がでるなどの運営の仕方や，模擬授業を観察する方法などについての発展的な意見もあったので，来年度からの参考にしたい。

また，初等教科で経験した教材を指導方法どのように適用かが本授業の目的であるが，初等教科を受けている受講生とそうでない者とでは，教材の理解度や模擬授業の方法などに差がでることが分かった。